

スウェーデンにおける 基礎自治体の社会指標としての KKiK — 日本の社会指標との関連で —

西 下 彰 俊

1. はじめに

スウェーデンにおいて、様々な情報のデータベースや報告書が、ランスティング（県）レベル、コミューン（市）レベルを単位に、公開されていることは望ましい。容易に様々なテーマやトピックスに関するデータが取得できることは、関係者にとって歓迎されることである。高齢者ケアの分野についても、コミューンを単位にした情報公開が継続的になされることは、要介護高齢者本人のみならず、その家族・親族、高齢者団体、コミューン議会議員、社会サービス委員会、高齢者ケア課にとって望ましいことである。

これまで、筆者は高齢者ケアに関する Öppna Jämförelser（公開情報）や Äldreguiden（高齢者ガイド）といった情報公開のツールについて取り上げ考察してきた。このうち、前者の Öppna Jämförelser では、Socialstyrelsen（社会庁）および Sveriges Kommuner och Landsting（スウェーデン・コミューン・ランスティング連合会、以下、SKL と略す）が、高齢者ケア関連の諸分野にとどまらず、例えば、企業環境、公衆衛生、薬剤、都市計画および安全性、公共交通、環境・エネルギー、天候、学校教育、犯罪、生活保護、ホームレス、虐待・依存症、子ども若者の福祉、障がい者といった様々な施策に関して、コミューンレベル、ランスティングレベルの比較が可能な情報を毎年提供している。これらのトピックスのうち高齢者ケア関連については筆者が幾つか公開された情報に関して分析考察している（西下彰俊、2008、pp. 7-21；西下彰俊、2013、pp. 33-40；西下彰俊、2014a、pp. 25-36；西下彰俊、2014b、pp. 27-43）。

後者の Äldreguiden では、ホームヘルプサービスについては 8 項目、介護の付

いた特別住宅については 15 項目の指標が設定されている。インターネット上で高齢者を含めた一般利用者、コミュニケーション職員等が情報を得たいと思うコミュニケーション名を入力することにより、ホームヘルプサービスについては、運営を委託されているコミュニケーションあるいは民間事業者ごとに、全体的な満足度、ホームヘルパー 3 項目、影響と参加 4 項目の合計 8 項目の情報を得ることができる。介護の付いた特別住宅に関しては、運営を委託されているコミュニケーションあるいは民間事業者ごとに、全体的な満足度、職員 5 項目、影響と参加 4 項目、活動と研修 3 項目、食事 2 項目の合計 15 項目の情報を一覧できる形で得ることが可能である。筆者は、かつてこの Äldreguiden を紹介し、集計分析したことがある（西下彰俊、2008、pp. 7-21；西下彰俊、2013、pp. 33-40）。

以上の社会庁主導型の情報公開のデータベースとは別に、SKL は、単独で 2007 年から毎年、Kommunes kvalitet i korthet（以下、KKiK と略す）という 38 項目からなる「簡易版コミュニケーションの質」を公表している。2007 年は、上記の Öppna Jämförelser や Äldreguiden が公表された年であり、この年から飛躍的にスウェーデンにおける多面的な情報公開がスタートしている。

2007 年の KKiK の公表時に、データを SKL に提供し協力するコミュニケーションは 43 か所と少数に留まっていたが、年を追うごとに増え続け、2013 年は 214 コミュニティ、2014 年は 225 コミュニティとなり、2015 年には 230 コミュニティまで増え、コミュニケーション参加率は約 79% まで上昇している。この「簡易版コミュニケーションの質」は、各コミュニケーションの持つ様々な性能を多角的に測定するためのツールとしての有効性が理解されつつあるので、今後も参加コミュニケーションは増え続けるであろう。ただし KKiK へのデータ提供は任意であり、またデータ管理のコストがかかることから 290 の全コミュニケーションが参加することは難しい。

2. KKiK の具体的指標と 4 つのコミュニケーションの結果

(1) コミュニティのアクセシビリティ

表 1 は、2014 年におけるハリェダ（Härjedalen）、リドショーピング（Lidköping）、リンショーピング（Linköping）、ダンデリード（Danderyd）の各コミュニケーションの KKiK の結果及びスウェーデン全体の平均値を示したものである。スウェー

表 1 4 コミューンの質 (KKiK) の結果一覧表

次元	ハリーダ	リドショ ーピング	リンショ ーピング	ダンデリ ード	2014 年 の全国平 均
【1】 コミューンのアクセシビリティ					
1. E-post のアクセシビリティ (%) : メールによる簡単な質問に、2 平日以内に返答が得られた割合。	87	94	65	74	83
2. 電話のアクセシビリティ (%) : コミューンに電話で簡単な質問をし、その場で返答が得られた割合。	69	62	32	56	49
3. 電話での対応 (%) : 簡単な質問をするためにコミュニティに電話でコンタクトを取った際、良い対応を受けたと感じた割合。	90	96	87	82	86
4. 8~17 時以外の営業時間、1 週間あたりの時間数 (%) : 主要図書館・公営プール・ゴミ収集所が平日午前 8 時から午後 5 時以外の時間に営業している 1 週間あたりの時間数。	32	66	86	90	48
5. 希望日に保育所に入所できた割合 (%) : 希望日当日もしくはそれ以前に、保育所に入所できた子供の割合。	71	100	46	100	67
6. 希望日に保育所に入所できなかった子供の待ち時間の日数 : 保育所への入所希望日から入所できた日までの平均日数。	9	0	32	0	21

7. 介護の付いた特別住宅への入居までの待ち日数：申請日から入居可能日までの平均日数。	51	23	56	59	52
8. 生活保護の待ち時間、日数：生活保護申請のために社会福祉課と最初にコンタクトを取って訪問した日から、生活保護の決定が下るまでの平均日数。	9	16	38	23	16
【2】 コミュニの安心感					
9. 地域満足感インデックス—安全：コミュニティがどれだけ安全かに関する住民の評価。	67	61	58	68	61
10. ホームヘルプにおける14日間の職員数から見た職員継続性：利用者が14日間にサービスを受けたヘルパーの平均数。	16	11	—	15	15
11a. 職員1人あたりの子供の数、計画に基づいた数：保育所に通っている1～5歳の子供の数を、職員の年間勤務職員数によって割って算出した人数。(2013)	5.2	5.0	5.7	5.2	5.4
11b. 職員1人あたりの子供の数、出席していた数：出席していた子供の数を、勤務していた職員の数で割って算出した人数。	4.2	4.3	—	—	4.3

【3】参加とコミュニティの情報					
12. コミュニティ選挙への参加率(%)：直近のコミュニティ選挙における投票率。	87.5	86.9	85.2	89.2	83.2
13. ウェブ上の情報提供、最高点を100とした数値：コミュニティのHP上における情報提供をインデックス化した値。	87	90	88	83	78
14. 参加インデックス、最高点を100とした数値：最高点を100とした数値。	72	72	52	33	53
15. 影響力に関する満足感インデックスー総合：1から100までの数字で示される。	51	50	45	52	40
【4】コミュニティの効率性					
16. 保育所の子供一人当たりのコスト(クローナ)：コスト総額を、前年及びその年の10月15日に測定した保育所に在籍する子供の数で割ったもの。(2013)	127,646	121,961	125,727	122,536	125,593
17a. 6年生の全国テストの平均割合(スウェーデン語・算数・英語)(%)：スウェーデン語・第二外国語としてのスウェーデン語・英語・算数の4教科テストでE以上の成績を取った生徒の割合。	96	94	93	99	92

17b. 3年生の全国テストの平均割合（スウェーデン語・算数）（％）：スウェーデン語・第二外国語としてのスウェーデン語・算数の3教科テストをクリアした生徒の割合。	79	67	67	85	68
18. 9年生の職業科入学の資格を有する生徒の割合（％）：職業科への入学資格を有する9年生の数を、9年生の目標及び知識に関連した成績システムで最低1科目でも卒業成績を取ったもしくは取れると考えられる生徒の数で割って算出した数値。	95.1	90.9	88.1	97.9	86
19. 学校及び授業に対する8年生の生徒の意識、肯定的な回答の割合（％）：学校と授業に対する生徒の意識調査で、「全くそうである」か「かなりそうである」を選んだ生徒の割合。	76	—	80	74	76
20. 小中学校の成績1ポイントあたりのコスト：コミュニケーションの学校の9年生の成績1ポイントあたりのコスト。	289	317	356	283	368
21. 4年間で高校の卒業単位を取った生徒の割合（％）：コミュニケーションに住所登録している高校生で、その後4年間に卒業資格を取った学生の割合。	80.7	82.5	78.6	87.0	78

スウェーデンにおける基礎自治体の社会指標としての KKiK

22. 高校を卒業しない生徒にかかるコスト：生徒1人あたりのコストと、高校のカリキュラムを4年以内に履修していない生徒の割合(比率)をかけた数値。	17,661	19,250	20,917	11,593	25,186
23. 介護の付いた特別住宅のクオリティ面で、最高点を100とした数値。	85	57	71	69	66
24. 介護の付いた特別住宅の利用者一人当たりのコスト(クローナ)。(2013)	618798	648286	382948	1093036	672629
25. 介護の付いた特別住宅に「とても」もしくは「かなり」満足していると答えた利用者の割合(%)。	83	90	80	78	84
26. ホームヘルプによるケア及びサービスの提供で、最高点を100とした数値。	76	67	91	79	66
27. 高齢者福祉におけるホームヘルプの利用者一人当たりのコスト(クローナ)。(2013)	285,466	198,043	158,531	212,412	248,069
28. ホームヘルプ利用者で、「とても」もしくは「かなり」満足していると答えた利用者の割合(%)。	93	95	90	87	91
29. LSS グループホーム・サービスホームのクオリティ面で、最高点を100とした数値。	82	90	68	74	82
30. 施策を受けて1年後、新たに問題を起こさなかった若者(%)。	80	70	79	85	78

【5】社会構築家としてのコミュニン

31. 20～64 歳の住民のうち、就業している住民の割合 (%) : 就業している 20～64 歳の住民の数を 20～64 歳の住民の数で割ったもの。(2013)	85.0	80.5	73.2	79.1	78.5
32. 生活保護を受けたことがある住民の割合 (%) (2013)	1.9	2.4	5.9	0.8	4.1
33. 住民 1,000 人あたりの新設企業の数	5.3	4.1	5.6	12.2	4.9
34. 病欠手当の受給数 (2013)	8.4	10.4	5.9	4.4	9.3
35. 家庭ゴミよりリサイクルされた資源 (%) (2013)	34	22	41	38	36
36. コミュニン所有のエコカー (%)	47	61	—	65	44
37. エコ生鮮品 (%)	12	26	28	17	20
38. 地域 満足感インデックス—総合	71	73	67	77	60

(注) 元々の KKiK の 34 番目は、利用者満足インデックス—SKL の調査に基づく企業環境という項目であったが、230 のコミュニンの全てが無回答であったため、SKL は、公表時に項目 34 を削除している。

(出典) Sveriges Kommuner och Landsting, 2014

デン全体では 290 コミュニンあるが、225 コミュニンがデータを提供している。

ここで扱う 4 コミュニンのうち最初の 3 コミュニンは、筆者が以前、介護の付いた特別住宅で働く介護職員に対するアンケート調査を実施したコミュニンである (西下彰俊、2014、pp. 207-238)。最後のダンデリードは、アンケート調査の対象ではなかったが、スウェーデンでも最も裕福なコミュニンなので、比較対象として選んでいる。すなわち、2011 年における住民一人あたりの平均年収は、486,700 クローナ (男性の平均は 649,400 クローナ、女性の平均は 343,200 ク

ローナ)である。2015年11月現在の為替水準で換算すると(1クローナ=約14円)、コミューン全体の年収の平均は約681万円となる。他方、スウェーデン全体の平均年収は、262,500クローナ(男性の平均は、303,800クローナ、女性の平均は343,200クローナ)であり(Statistiska centralbyrån, 2014, pp. 290-292)、日本円で約368万円である。こうしてみるとダンデリード・コミューンが突出して最も裕福なコミューンであることが分かる。

さて、KKiKは、5つの柱からなり、合計38項目から構成される。2014年データが最新であるが、項目によりデータを提供したコミューンの数が異なり、最も多い場合には225コミューンとなっている。なお、2015年データに関しては、2016年1月19日に公表される予定である。

KKiKの各柱は、(1)コミューンのアクセシビリティ、(2)コミューンの安心感、(3)参加とコミューンの情報、(4)コミューンの効率性、(5)社会構築家としてのコミューンの5つである(Sveriges Kommuner och Landsting, 2015)。

柱ごとに、構成要素である各項目の内容と4コミューンの結果及び平均点を見てみよう。第1の柱の「コミューンのアクセシビリティ」は、8項目から構成される(項目1-項目8)。項目1から項目4までは、問い合わせに対するコミューンの反応を示し、項目5と6は保育所に関するデータ、項目7は高齢者の施設ケアのデータ、項目8は生活保護に関するデータである。項目3および4は、「良い」「良くも悪くもない」「悪い」の3段階の判断のうち、「良い」と答えた人の割合のみを示している。

項目1から4については、各コミューンの住民に、窓口対応について評価を聞いているわけではない。SKL職員であるKKiKの責任者の一人、Leit Eldås氏によれば、依頼された調査会社の調査員が覆面で各コミューンにアクセスし評価している。SKLには予算がないため、KKiKに参加するコミューンは、評価の良し悪しに関係なくこの調査費用を負担する。珍しいシステムだが、このコストが、KKiKへの参加を留まらせる一つの要因になっている可能性が高い。

各項目について、スウェーデン全体の平均値からのマイナスの意味での(つまり望ましくない方向での)隔たりを見てみよう。項目1と項目2は、リンショーピングの評価が低い。もちろん、全コミューンの最低というわけではないが(ちなみに、項目1の全国の最低は、Lundコミューン及びSvedelaコミューンであ

り 50%)、対象とする 4 コミューンの中では最も低く、全国平均からの隔たりも大きい。項目 5、項目 6、項目 8 については、同じくリンショープिंगの成績が極めて悪い。

項目 7 は、介護の付いた特別住宅への入居待ちの日数に関するデータである。社会サービス法では、介護の付いた特別住宅への入居という措置を決定した日から 3 か月以内に、申請者が入居できるようにしなければならないという規定があり、この規定を無視して、半年も 1 年もあるいはそれ以上も放置した場合には、裁判所による調査の上で「特別費用」(salskilt avgift) という罰金がコミュニティに課される(西下彰俊、2012、p. 32)。この項目 7 は、申請日からの日数を測定しており、同法や特別費用に関連はしているが、同じ意味ではない。

介護の付いた特別住宅の数はスウェーデン全体で毎年減少しているが(西下彰俊、2015、p. 22)、この傾向は、コミュニティの援助判定員(biståndshandläggare)による判定が厳しくなっていることによるものである。具体的には、介護の付いた特別住宅の入居者数は、2000 年に 117,900 名であったものが、2009 年には 95,400 名に激減し、さらに 2015 年には 88,700 名まで減ってきている。

その結果、希望者が申請を却下される割合が増えていると考えられるが、KKiK ではそうした項目に関する情報は設定されていない。また、介護の付いた特別住宅への入居に関する却下率は、各コミュニティが把握している情報なので、以下で述べるコミュニティの安心感に入れるべきである。

(2) コミュニットの安心感

第 2 の柱の「コミュニティの安心感」は、4 項目から構成される(項目 9—項目 11b)。項目 9 は地域の安全に関する満足感、項目 10 はホームヘルプサービス、項目 11a、11b は保育所職員一人あたりの子供の数を示している。項目 10 は、65 歳以上の高齢者のうち月曜から日曜まで毎日、1 日 2 回以上ホームヘルプを受けている利用者を対象としており、安全アラーム及び配食サービスのみの利用者は対象外としている。項目 11a は、コミュニティ内の全保育所を対象としている。職員数はフルタイムの職員数で計算し、子供数は実際の人数を基準にしている。

第 2 の柱を構成する 4 項目の結果が著しく悪いコミュニティはなかった。項目の設定に関して付言すると、確かに項目 10 で測定しているように、ホームヘル

パーの顔ぶれが少ない方が利用者の安心感につながるかも知れないが、この項目以上に重要なのが有料の「安心アラーム」(tryggetsalarm)である。コミューンにより料金が異なるが1か月200 クローナ程度(約3,000円)のところが多い。コミューンの援助判定員による措置により、ペンダント型あるいは時計型の安心アラームのサービスを受けることが可能になった利用者について、実際に安心アラームを押してもらい、コミューンからの電話あるいはホームヘルパーの訪問を受けるまでの時間を測定した方が、「コミューンの安心感」をより正確に測定することになる。事実、安心アラームの所要時間については、Öppna Jämförelserにおいて、コミューンごとのデータが情報公開されていることからその重要度が理解できよう。

2015年9月、社会庁は、全国290コミューンのうち240コミューンについて、要介護高齢者に対する安心アラームの措置状況を明らかにした(socialstyrelsen, 2015, pp. 31-37)。すでにデータが得られているのであるから、KKiKの(2)コミューンの安心感の構成要素として組み込むことは容易である。ちなみに、上記報告書で4コミューンの安心アラームのサービス提供状況を見ると、ハリエダ・コミューンが591、リドショーピング・コミューンが1,000、リンショーピング・コミューンが3,200、ダンデリード・コミューンが630であった。要介護高齢者に占める安心アラームのサービス利用者を計算し、KKiKに組み込むことにより、コミューンの安心感の多面性を確保することが必要不可欠である。

(3) 参加とコミューンの情報

第3の柱の「参加とコミューンの情報」は、4項目から構成される(項目12—項目15)。項目12はコミューン市議会議員選挙の投票率、項目13はコミューンのHPの情報提供、項目14は市民参加、項目15は影響力に関する満足度指標をそれぞれ示している。項目13について、調査は12の事業分野について行われ、それぞれの事業分野の最高点をインデックス100とする。項目14の点数はコミューンにおける市民参加の可能性に関する18の質問に基づいている。インデックスは、市民がコミューン発展に参加するのをコミューンがどれだけ可能としているかを総合的に示している。項目15は、コミューンに対し影響を与える可能性に関する3つの質問に基づいている。

項目 12 は、コミューンの市議員選挙への投票率であり、4 コミューンとも全国平均より高い。項目 13 から項目 15 の 3 項目は、全てインデックス化されているため、全国平均からの差について具体的に何が課題なのか容易に知ることができない点が問題である。

(4) コミューンの効率性

第 4 の柱の「コミューンの効率性」は、15 項目から構成される（項目 16—項目 30）。この柱は構成要素の項目数が他の柱に比べて極めて多い。項目 16 は子供一人あたりの保育所のコストであり、コミューン内の全保育所を対象とする。項目 17 から 22 までは小学校、中学校、高校に関するデータ、満足度、コストから構成される。項目 23 から 28 まではホームヘルプサービスおよび介護の付いた特別住宅に関するクオリティ、満足度、利用者一人あたりのコストから構成される。項目 29 は障がい者のグループホームのクオリティ、項目 30 は若者の問題行動に関する比率をそれぞれ示している。

項目 23 は、介護の付いた特別住宅のクオリティを総合的に評価するものであり、15 個の質問にそれぞれ 0～5 点を与え、質問の総計を可能な最高点で割った比率として示している。具体的には、以下の 15 個の質問であり（表 1 には示されていない）、全て % で示される。①死亡時に付添い人がいた人の割合、②介護の付いた特別住宅で高齢者が毎日外に出ることができる割合、③介護の付いた特別住宅で高齢者が希望に応じておしゃべりや花の手入れなどの時間を与えられる割合、④介護の付いた特別住宅で高齢者が昼食・夕食に料理を選択することができる割合、⑤介護の付いた特別住宅で高齢者が個室においてインターネットを接続することができる割合、⑥介護の付いた特別住宅の個室で高齢者が、基本チャンネル以外にどのチャンネルを持つか選択できる割合、⑦介護の付いた特別住宅の共同スペースで、高齢者が基本チャンネル以外にどのチャンネルを持つか選択できる割合、⑧介護の付いた特別住宅で居住者が夜食を提供される割合、⑨介護の付いた特別住宅で高齢者自身が夜何時に寝るかを決めることができる割合、⑩介護の付いた特別住宅で、高齢者自身が朝何時に起きるかを決めることができる割合、⑪介護の付いた特別住宅が休日に毎日最低 1 つ、計画に基づいた共同のアクティビティを提供している割合、⑫介護の付いた特別住宅が平日に毎日最低 2 つ、

計画に基づいた共同のアクティビティを提供している割合、⑬介護の付いた特別住宅が夫婦の同居を提供している割合、⑭介護の付いた特別住宅で高齢者が自分の母国語（スウェーデン語を含む）でコンタクトパーソンと話ができる割合、⑮死亡者の近親者で死亡後の対話が提供される割合の 15 項目である。

4つのコミュニティの中で、唯一リドショーピング・コミュニティだけが介護の付いた特別住宅のクオリティが極めて低い。しかしながら、例えば、社会庁と SKL が 2010 年に公表した Öppna Jämförelser によれば、介護の付いた特別住宅の介護全般に対する利用者評価について、リドショーピングは全コミュニティのうち 70 位であり、ハリーダの 166 位やリンショーピングの 131 位よりは上位である（西下彰俊、2012、pp. 104-111）。以上のことから具体的に介護の付いた特別住宅の何を評価しているかにより、質の結果の解釈が異なってくるのであって、性急な評価は慎まなければならない。

項目 24 については、運営形態に関わらず、コミュニティ内の介護の付いた特別住宅全てを対象としている。介護の付いた特別住宅のコストは、80% 程度が人件費であると考えられ、コミュニティ間格差は少ないはずである。何故ならば、おしなべてコストが高いために、介護の付いた特別住宅の運営費は必要最低限に抑えられているからである。しかし、4つのコミュニティのうち最もコストの高いダンデリードは 1,093,036 クローナ（約 1,530 万円）、最も低いリンショーピングは 382,948 クローナ（約 536 万円）と約 2.9 倍の格差が存在しており、これまでの理解とは異なる不思議な結果と言わざるを得ない。

項目 25 は、高齢者へのアンケート調査で、自分の住んでいる介護の付いた特別住宅に「とても」もしくは「かなり」満足していると答えた高齢者数を、調査に参加した高齢者の数で割った数値である。この質問項目が、先に述べた Öppna Jämförelser の介護の付いた特別住宅の介護全般に対する利用者評価に対応している。

項目 26 については、最高点の割合の総合結果であり、%で示される。それぞれの質問に 0~3 点が与えられ、質問の総計を可能な最高点で割った数値を示している。項目 26 の結果のもととなった具体的なデータは、以下の 17 項目である（表 1 には示されていない）。①ホームヘルプ利用者が身体介助を提供する職員の性別を選ぶことができること。②ホームヘルプ利用者がサービスを受ける時

間帯を選べること。③ホームヘルプ利用者に日用品の買い物サービスが提供されること。④ホームヘルプ利用者がシャワー介助を週 2 回以上受けることができること。⑤ホームヘルプ利用者が、住居における簡単な調理援助を受けることができること。⑥ホームヘルプ利用者に対しエスコートサービスが提供されること。⑦ホームヘルプ利用者が日用品の買い物サービスについていくことができること。⑧ホームヘルプ利用者に対し散歩援助が提供されるその頻度。⑨ホームヘルプ利用者に掃除サービスが提供されるその頻度。⑩ホームヘルプ利用者に掃除サービスが提供されるその範囲。⑪ホームヘルプ利用者に洗濯サービスが提供されるその頻度。⑫ホームヘルプ利用者、必要に応じ安心コール・電話サービスが提供されること。⑬ホームヘルプ利用者が、同じ言語（母国語）を話すことができる職員を選ぶことができること。⑭65 歳以上の住民に対し、草刈りや雪かき、フィクサーサービスなどのサービスが提供されること。⑮65 歳以上の住民に対し、社会的交流の場であるデイサービスが提供されること。⑯65 歳以上の認知症を有する人に対し、必要に応じ援助判定に基づくデイサービスが提供されること。⑰65 歳の住民で視力及び聴力に障害を有する人に対し、必要に応じてサポート及びアドバイスが提供されること。以上の 17 項目である。

項目 27 は、ホームヘルプサービスの利用者一人当たりの年間コストを意味するが、安全アラームと配食サービスのみの高齢者及びホームヘルプが月に 2 時間以下の利用頻度が少ない高齢者は除外されている。運営形態に関わらず、コミュニティ内の全ホームヘルプを対象としている。最もコストが高いのがハリーダで 285,466 クローナ（約 400 万円）、最も低いのがリンショーピングの 158,531 クローナ（約 222 万円）と約 1.8 倍の格差が確認できる。項目 28 は、ホームヘルプサービス利用者への満足度調査の結果であり、「とても」もしくは「かなり」満足していると答えた高齢者数を、調査に参加した高齢者の人数で割った数値を示している。

項目 29 は、一定の機能が十分でない人々の援助とサービスに関する法律（LSS）に基づくグループホームに関する評価である。具体的な質問項目は別表で示されており（表省略）、それぞれの質問に 0～5 点が与えられている。質問の総計を可能な最高点で割った数値であり比率で示されている。項目 30 は、調査・施策終了後、1 年間に社会サービス課との接触がなかった 13～20 歳の若

者の割合を示している。再コンタクトは、正式な調査開始のみを指すものとする。生活保護および親のいない難民の子供・若者は含まれていない。

(5) 社会構築家としてのコミュニティ

第5の柱の「社会構築家としてのコミュニティ」は、9項目から構成されている(項目31—項目39)。項目31は就業率、項目32は生活保護割合、項目33は新設企業数、項目34は企業環境に対する利用者満足、項目35は病欠手当の日数をそれぞれ表している。項目36から38はエコ関係の項目であり、それぞれリサイクルされたごみの割合、エコカーの割合、エコ生鮮品の割合を示している。項目39は地域に対する満足度インデックスを示している。

項目33は、コミュニティ住民1,000人あたりの新しく登録された企業数を示したものである。項目34は、利用者満足度インデックスであり1から100の値を取る。項目35は、16~64歳の住民1,000人に支給された病欠手当及びリハビリ手当の日数である。

項目36は、家庭ゴミのうち、資源リサイクル(生ゴミのバイオ処理を含む)の対象としてリサイクルされたゴミの割合を比率で示したものである。項目37は、コミュニティ自身の調査ではなく、エコ車両の調査に基づいており、法律に基づく環境条件を満たしている自動車及び軽トラックの割合を意味する。項目38は、コミュニティが購入したエコ生鮮品のコストを、コミュニティが購入した生鮮品の総コストで割った値である。なお、エコ生鮮品とは、KRAVマーク(エコロジー認定を受けた生産者によって有機栽培された製品に付けられたマーク)、EUのエコ生鮮品の環境シンボルその他の承認されたエコロジー製品マークの付いている生鮮品のことを意味する。

(6) 他コミュニティの取り組み

以下の表1には含めていないが、カトリーヌホルム・コミュニティはKKikに対して極めて積極的な取り組みをしているコミュニティである(Katrineholm, 2014)。

自身のコミュニティの38項目の結果について、全コミュニティの中での順位を、上位25%以内の結果については濃い緑色、上位26%から50%までを薄い緑色、51%から75%までを黄色、下位25%をオレンジ色に分け、自身のコミュニティ

の強みと弱みをシンボリックに色で区別し、可視的に理解を促進する工夫をしている（西下彰俊、2015a、pp. 20-33）。

同コミュニティは、2014年の場合、9項目について下位25%に位置づくという結果であった。点数が低く同コミュニティの緊急政策課題となっているのは、以下の通りである。①E-postのアクセシビリティが悪く返事が遅過ぎること、②希望日に保育所に入所できる割合が低過ぎること、③保育所への入所の待機が長過ぎること、④介護の付いた特別住宅への待機日数が長過ぎること、⑤保育所において職員一人あたりの定員子供数が多過ぎること、⑥保育所において、職員一人あたり子供数が多過ぎること、⑦3年生のスウェーデン語および算数のテストの合格率が低過ぎること、⑧9年生の職業科入学資格を有する割合が低過ぎること、⑨ホームヘルプサービスの利用者一人あたりのコストが高過ぎること。

以上述べてきたように、保育所関係、教育関係、高齢者ケア関係における具体的な政策課題が数字で確認できるので、各コミュニティにとってKKiKは政策課題を浮き彫りにする有力なツールになっていると言える。有効に活用するためには、同コミュニティの取り組みが大いに参考になると言える。なお、SKLのHPには、同コミュニティの刺激を受けて翌年以降に公表された20コミュニティほどの事例が示されている。

3. 日本における自治体の社会指標

スウェーデンのSKLが開発したKKiKの各指標を確認して分かることは、日本における自治体の社会指標に似ていることである。筆者は1995年に、当時の政令指定都市12市（札幌市、仙台市、千葉市、川崎市、横浜市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市）及び東京都区部を対象とする社会指標を提案したことがある。具体的には、生命の質、生活の質、人生の質の3次元からなるQOL（Quality of Life）社会指標を構築し相互に比較した結果、名古屋市が最もQOLの高い都市であることを実証的に明らかにした（西下彰俊、1995a、pp. 46-55）。政令指定都市12市及び東京都区部について65指標の数値、順位、偏差値を全て論文として掲載することはできなかったため、別資料を参照していただきたい（西下彰俊、1995b、pp. 1-24）。

筆者が提案した「QOL 社会指標」は、以下のような枠組みである。社会指標を QOL (Quality of Life) という観点から、生命の質・生活の質・人生の質の 3 次元に分け、総合的な社会指標を目指した。以下に述べる各指標は、人口 10 万人あたりのもの、人口 1 万人あたりのもの、人口 1,000 人あたりのものとあり、指標により使い分けている。

まず、生命の質を構成する指標は、男性平均寿命、女性平均寿命、アルファ係数（乳児死亡率÷新生児死亡率）、がんの死亡者数、虚血性心疾患死亡者数、脳血管疾患死亡者数、寝たきり老人数、痴呆性老人数、救急指定病院数の 11 指標である。

次に、生活の質は、社会福祉、快適環境、住宅、経済、労働、教育の 6 エリアから構成される。社会福祉は、保育所数、保育所運営費（児童一人あたり月額）、生活保護実人員、母子寮定員、精神障害者養護施設定員数、身体障害者養護施設定員数、常勤ホームヘルパー数、ショートステイベッド数、デイケアセンター数、特別養護老人ホームベッド数、老人保健施設定員数の 11 指標からなる。快適環境は、DID (Densely Inhabited District) 人口密度、公共空地率、非木造率、住宅老朽化率、土地区画整理率、都市公園面積、地下街率、公営地下鉄エスカレータ設置率、公営地下鉄エレベータ設置率、交通事故死者数、少年犯罪検挙率、刑法犯検挙率、出火率、ごみ収集量、公共下水道普及率の 15 指標から構成される。住宅は持ち家率と 1 住宅平均延べ床面積の 2 指標からなり、経済は一人あたり所得、個人預貯金残高、一人あたり購買額、消費者物価指数の 4 指標から構成される。労働は、女性パートタイマー数、労働者有効求人倍率の 2 指標から、教育は専門学校数、短期大学・大学数の 2 指標から構成される。生活の質指標は、全部で 36 指標から構成される。

第 3 の人生の質は、交流・社交、文化環境、人生の意味の 3 エリアから構成される。交流・社交は、昼間人口指標、女性役員比率、女性参加率（審議会等）、登録外国人総数、交際費、余暇活動時間の 6 指標から構成される。文化環境は、図書館総数、司書数、博物館数、学芸員数、公民館数、映画館数の 6 指標から構成される。人生の意味は、未成年男性自殺率、未成年女性自殺率、成年男性自殺率、成年女性自殺率、高齢者男性自殺率、高齢者女性自殺率の 6 指標から構成される。筆者が提案した「QOL 社会指標」は、合計 65 指標から構成されたボリュームの

ある社会指標である。

分析した当時の結果の主要な部分だけまとめると以下ようになる。名古屋市を例に結果を見ると、まず生命の質の次元では、名古屋市は救急指定病院数とアルファ係数のみ第1位であり、残りの9指標は平均以下であった。生命の質次元全体では、12の政令指定都市と東京都区部のうち、第7位であった（西下彰俊、1995a, p. 49）。生活の質次元全体では、第1位が名古屋市、第2位が仙台市、以下札幌市、神戸市という順であった（西下彰俊、1995a, p. 50）。人生の質次元全体では、第1位が東京都区部であり、以下京都市、名古屋市、広島市、仙台市という順であった（西下彰俊、1995a, p. 51）。

QOL指標総合の順位は、第1位が名古屋市（平均偏差値52.5）、第2位が仙台市（平均偏差値52.0）、第3位が札幌市（平均偏差値51.7）である。以下、東京都区部（51.4）、広島市（50.3）、福岡市（50.3）、千葉市（50.1）、神戸市（49.5）、大阪市（49.2）、京都市（49.2）、横浜市（48.7）、川崎市（47.8）と続いている（西下彰俊、1995a, p. 51）。

4. 結論と今後の課題

相互に比較しつつ各基礎自治体の強みと弱みをエビデンスに基づき実証的に明らかにすることは、スウェーデンにおいても日本においても、必要不可欠な政策課題であるが、スウェーデンがここ数年で社会指標としての完成度を高めつつあるのに対し、日本では1980年代後半以降、社会指標に基づくこうした自治体間比較が下火になっている点で対照的である。ただ、政府レベルでは、内閣府経済社会総合研究所が「社会指標に関する研究」を継続的に進めている（内閣府、2015）。また、7つの自治体では、幸福度を測定する社会指標に特化する形で調査研究が行われている。

確かにスウェーデンのKKiKについては、コミュニケーションの性能を計るツールとして有効であると判断できる。ただし、設定された5つの柱（1）コミュニケーションのアクセシビリティ、（2）コミュニケーションの安心感、（3）参加とコミュニケーションの情報、（4）コミュニケーションの効率性、（5）社会発展家としてのコミュニケーションが、コミュニケーションの性能を網羅的にカバーできているかどうかについては疑問であるし、また各柱を構成す

る複数の指標が妥当であるかどうかも疑問である。

全体で 38 の指標から構成されるが、それぞれの指標のデータの出典が多様であり、かつ政府機関が持つデータベースが情報源となっている。例えば、社会庁、SCB（スウェーデン中央統計局）、学校庁、社会庁などのデータが元になっている。従って、個々の住民がデータを市民レベルで再確認することは不可能である。そうした検証可能性が担保されていない点は、市民のための KKiK（「簡易版コミュニケーションの質」）であることを標榜しているならば問題であると言わざるを得ない。加えて、項目 23、項目 26、項目 29 に関しては、数多くの質問項目から得られる実証的なデータがベースにあり、その全体の合計だけが数字で表示されている。この数字が一体何を意味するものかは容易に理解できないほどのデータが入れ子のように織り込まれている（Sveriges Kommuner och Landsting, 2014, KKiK）。

さらに 38 項目の指標のうち、6 指標は満足度に関するものである。客観的な社会指標を志向するならば、むしろこうした主観的な評価は捨象すべきであろう。「簡易版コミュニケーションの質」という指標として、客観的な指標と主観的な評価が統合されることが望ましいとするならば、その方法論に関する妥当性に関する説明が必要になろう。他方、筆者の QOL 社会指標には、こうした理由から満足度という主観的な評価項目を入れてない。

基礎自治体の性能の全体を把握する SKL の試みは重要であるし、共時的に比較することにより、各コミュニティの強みと弱みを実証的に確認できることは素晴らしい。さらに、各コミュニティの通時的な変化（改善あるいは改悪）を可視化かできることも必要不可欠である。ツールとしての完璧性を絶えず追求することが要請されよう。

翻って、筆者の提案した QOL 社会指標はどうか。筆者の場合、社会学の中でも伝統のある社会指標論の系譜を辿るという大切なステップを踏んでいない点で大きな問題があることは否めない。ただ社会指標に関する先行研究には、QOL という概念的な枠組みのもとに各社会指標を設定するという研究が皆無であった。そこで、生命の質、生活の質、人生の質という多次元的な枠組みを設定し、各次元に対応していると考えられる社会指標を組み込んだ。この組み込みの作業に関して留意したことは、データのアクセシビリティである。つまり住民が容易に集められる社会指標を設定したのである。具体的なソースとしては、大都市比較統

計、老人福祉事業調査、都市データパック、日本アルマナック、人口動態統計であり、市販されている資料からデータが得られるものを指標として取り入れたのである。この点では、第三者による検証が可能な QOL 社会指標となっている。

惜しむらくは、スウェーデンの KKiK にも、筆者の QOL 社会指標にも、基礎自治体の経済力を客観的に示す指標が入っていないことである。財政力指数を入れることで、都市の性能の基盤部部分を明らかにすることができ、より望ましい社会指標に近づくのではないかと考える。2015 年現在、政令指定市は 20 市に増えており、東京都区部とあわせて 21 となる。同じ QOL 社会指標と財政力指数を用いて社会指標比較分析を今後行うことが、さしあたっての課題である。

【引用参考文献】

Katrineholm, 2014

<http://www.katrineholm.se/PageFiles/32508/Kommunens%20Kvalitet%20i%20Korthet%202014%20resultat%20Katrineholm.pdf>

内閣府、2015、経済社会総合研究所

http://www.esri.go.jp/jp/prj/current_research/shakai_shihyo/shakai_shihyo.html

西下彰俊、1995a、QOL から見た政令指定都市の社会指標比較分析、名古屋都市センター編、『アーバン・アドバンス』、No. 6、pp. 46-55

西下彰俊、1995b、QOL 志向型都市の社会指標、名古屋都市センター編、『名古屋のイメージ向上に関する調査研究』、第 2 分冊、pp. 1-21

西下彰俊、2008、スウェーデンにおける高齢者ケアの現状と高齢者ケアに関する情報公開の先進性、健康保険組合連合会、『健保連海外医療保障』、No. 80、pp. 7-21

西下彰俊、2012、『揺れるスウェーデン』、新評論

西下彰俊、2013、介護の質に関する評価ツールとしての Äldreguiden、高齢者住宅財団編、『いい住まい いいシニアライフ』 Vol. 115、pp. 33-40

西下彰俊、2014a、スウェーデンの高齢者ケアに関する情報公開の不連続性（前半）、高齢者住宅財団編、『いい住まい いいシニアライフ』 Vol. 121、pp. 25-36

西下彰俊、2014b、スウェーデンにおける IVO の機能とコミュニケーション・レベルの情報

- 公開、高齢者住宅財団編、『いい住まい いいシニアライフ』Vol. 123、
pp. 27-43
- 西下彰俊、2014c、スウェーデンの介護職員における就労意欲に関する実証的研究、
東京経済大学現代法学部編、『現代法学』、第 26 号、pp. 207-238
- 西下彰俊、2015a、コミュニティの性能を多面的に測定するツールとしての KKiK、高
齢者住宅財団編、『いい住まい いいシニアライフ』Vol. 128、pp. 20-33
- 西下彰俊、2015b、スウェーデンと日本における高齢者ケアサービスの供給原則及
びサービスの展望、高齢者住宅財団編、『いい住まい いいシニアライフ』
Vol. 129、pp. 20-31
- Socialstyrelsen, Äldreguiden
<http://opnajokforelser.socialstyrelsen.se/aldreguiden/Sidor/default.aspx?step=1>
- Socialstyrelsen, 2013, kommun-och enhetsundersökningen, vård och omsorg om
äldre 2012-underlag till Öppna Jämförelser och Äldreguiden 2013
- Socialstyrelsen, 2014a, kommun-och enhetsundersökningen, vård och omsorg
om äldre 2014-Nationella resultat, metod och indikatorer
- Socialstyrelsen, 2014b, Meddelandeblad, Uppgifter för beräkning av avgifter
inom äldre- och handikappomsorgen år 2014
- socialstyrelsen, 2015, Trygghetslarm I kommunerna -kartläggning 2015-
<https://www.socialstyrelsen.se/Lists/Artikelkatalog/Attachments/19920/2015-9-8.pdf#search='Trygghetslarm+I+kommunerna+kartl%C3%A4ggning'>
- Statistiska centralbyrån, 2014, Statistisk årsbok för Sverige, pp. 290-292
- Svensk författningssamling, 2014: 13; 1991: 1278,
Forordning (1991: 1278) om kommunernas betalningsansvar för viss
hälso-och sjukvård
- Sveriges Kommuner och Landsting,
<http://skl.se/download/18.47382a8714855ca320e337a0/1411036607408/skl-KKiK-utveckling-syfte-2014-+ver-3.pdf>
- Sveriges Kommuner och Landsting, 2014, Resultatrapport Kommunens Kvalitet
i Korshuset
<http://skl.se/download/18.27a2758c14b3091437ea05ca/1424186508888/>

skl-resultatrapport-KKiK-2014-slutversion-2015-02-10.pdf

Sveriges Kommuner och Landsting, 2015, Verktygslåda Kommunens Kvalitet i Korthet

<http://skl.se/download/18.6bcd6a6714d9a54e2b951c3e/1433836490940/skl-verktygslada-2015.pdf>

【付記】

本稿は、筆者の既発表論文（西下彰俊、2015a、コミュニケーションの性能を多面的に測定するツールとしての KKiK、高齢者住宅財団編、『いい住まい いいシニアライフ』Vol. 128、pp. 20-33）の問題意識と方法論に基づき、あらたに 4つのコミュニケーションについて分析考察したものである。

なお、本稿は 2015 年度科研費補助金（研究代表者 西下彰俊、基盤研究（c）課題番号 26380777）及び個人研究助成費（14-22）の研究助成を受けて実施した研究成果の一部である。記して感謝する次第である。